

2015年 5 月 18 日

プロジェクト報告書

団体名 がんカフェ事項委員会

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

がんカフェ立川

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

地域包括ケアによって在宅療養は増加しつつあります。しかしながら医師の説明不足や患者の病気に対する知識の不足によって病気に対するより正しい理解がなされず不安にさいなまされている患者が数多くいます。そのような患者の疑問に答え診察室を出て平易に患者の疑問に答えていただきまた同病の方が情報を交換し病に処してゆく場所を提供しようと考えました。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

- 1 毎月1回。立川市内で医療関係者を招き患者の疑問に答えていただく場の提供
- 2 参加者は医師、看護師、病院相談員、ケアマネと患者と家族10名~12名程度
- 3 企画・運営はボランティアさくら、ブーゲンビリア、多摩ホスピスの主催3団体
- 4 相談料は無料

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

患者と家族への広報は立川市報と社会福祉協議会の広報「あいあい通信」によって行った。
医療者への参加要請はボランティアさくらが中心に行った。
開催の場所は立川市婦人団体協議会の会員であるブーゲンビリアが協力した。
当日の設営は3団体の会員の協力によった。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

告知を受けたばかりの患者、既に手術を終えた患者、再発や死への不安におののく患者など、がん患者の置かれている立場によって関心事は異なりテーブルわけに腐心した。参加患者延人員80名。医師医療者延20人
同病の方と経験談を聞き元気をもたらったという方や、医師や看護師と親しく話すことによって心に抱いていた恐怖や不安から逃れることが出来たという感想もあった。
今後、継続してゆくことがこのがんカフェの信頼度を高め市民の医療知識の普及に役立つことと思う。また、医療者の多くが謝礼を辞退された。
なお、個人情報の散逸の観点から写真は撮りませんでした。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし